

K U M I Y A M A

ほほえみ紀行

KUMIYAMA HOHOEMI KIKO
vol.
15
October 2005

久御山町がもっとおもしろくなる! 行政PR誌



特集 P.2 幼保一体化事業

「幼保一体化」で
子どもすこやか
家庭イキイキ、地域も元気

P.4 東角幼稚園の一日

P.6 チョットひと言お願いします!! インタビュー

P.8 さらに広がる 幼保一体化

P.9 町長に聞く／幼保一体化事業の必要性

P.10 楽しもう!子育て!! 久御山町子育て支援事業

P.11 桃源紀行「八朔祭」雙栗神社

P.12 くみやま ほほえみ Worker 子育ての「キーパーソン」



特集 幼保一体化事業

「幼保一体化」で 子どもすこやか 家庭イキイキ、地域も元気



いま、幼稚園と保育所のあり方が大きく変わろうとしています。

少子化の進行や保育ニーズの多様化が進むなか、幼稚園・保育所それぞれの機能や特性を生かした教育や保育を子どもの視点に立っておこなう姿勢が強く求められています。

今回の特集では、子ども一人ひとりの可能性を育み、家庭や地域の子育てに対する意識を高める取り組みとして、全国的に注目を集める幼保一体化事業について、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。



人間形成の基礎が培われる 幼児期の「育ち」の重要性

子どもたちが小学校に入る前の就学前教育が必要とされるこの時期は、小・中学校の義務教育、そして、高校・大学へと続く教育、さらには生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。

幼児期の「育ち」を支えるために重要な役割を果たしているのが、人間関係を築く幼稚園や保育所、そして家庭・地域社会です。

家庭、教育・保育の現場、地域社会のそれぞれがしっかりとその役割を果たし、連携することにより、一人ひとりの「育ち」を促していくことが必要です。

小・中学校へとつながる 「教育と保育」

久御山町では、特に幼児教育、就学前教育の充実を最大の課題としてとらえ、平成15年度から東角幼稚園に宮ノ後保育所の分園を併設し、幼保一体的な運営を実施しています。

幼稚園と保育所の子どもたちは同じ地域に住み、ほとんどの子どもたちが同じ小学校、中学校へと進みます。

小学校入学前の幼児期を共通の教育内容で過ごすことにより、就学前教育の充実を図り、小学校教育への円滑な移行、幼稚園と保育所、小学校との連

携が深まることにもなります。この連携・接続をさらに中学校へとつなげ、「保幼小中高一貫」の視点による教育活動を進めていくことができます。

保幼小中高一貫の視点による 教育活動の入口

幼保一体化は、保幼小中高一貫の視点による教育活動の入口です。

久御山町が推進する保幼小中高一貫の視点による教育活動は、教育を学校の種類ごとに区切るのではなくひとつの流れとしてとらえ、「生きる力」を育成するために、子どもの姿をより深く理解するとともに、長期的な視点に立って一人ひとりの個性を生かし、その資質や能力を培い、高めていくことをするものです。

最近、全国的に小学校低学年の「先生の話が静かに聞けない」、「授業中に立ち歩く」など、基本的な規律が守



れないなどの厳しい現状があります。本町の小学校1・2年生では1クラス31人以上の場合は複数の先生が授業に入り指導しています。

このような課題を解決するためにも、小学校へ入る前の幼児期の「育ち」において、基本的な生活習慣や規律など、小学校へつながる教育の基礎の部分をしっかりとし身につけることが、先の小・中学校教育に生かされるものと考えます。

子ども、家庭、地域の連携も 期待されます

東角幼稚園での一体的運営では、同じ地域の子どもたちが、等しい教育内容により就学前教育を受け、ともに生活するなかで、豊かな心や「生きる力」を育んでいます。

同じ園で過ごすことにより、友達関係の広がりや大勢の仲間のなかで自分もやりたい、自分にもできたなど、自主的に動くことや早くから自信なども身につくようにもなっています。

また、他の子どもたちと知り合え、同じ地域で暮らす子どもたちにとって良い人間関係がつけられています。

今後は、保護者同士、家庭と地域がさらに連携を深め、地域で暮らす子どもたちの「育ち」がより良く向上していくことが期待されます。

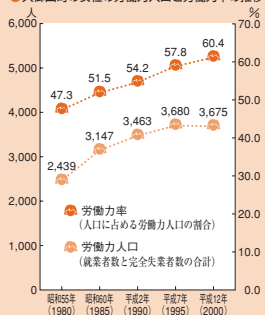
「どの児童も等しく教育を受ける」

久御山町の幼児教育は、保護者の就労形態にかかわらず希望するすべての幼児に等しく提供たくましく心豊かに育つように「幼保一体化」

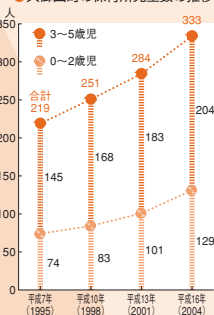
久御山町の女性の就業状況は、労働力人口はほぼ横ばいですが、労働力率は上昇しており、働く女性の役割が増加しています。

平成16年と13年を比べると、幼稚園に通う児童の数は若干減少し、逆に保育所に通う児童の数は、0～2歳児、3～5歳児ともに増加しています。

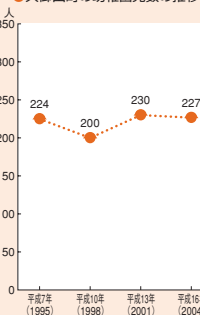
●久御山町の女性の労働力人口と労働力率の推移



●久御山町の保育所児童数の推移



●久御山町の幼稚園児数の推移





おはようございま〜す!

あいにくの雨…それでも子どもたちは元気な笑顔で先生の出迎えに朝のごあいさつ。

保育所在籍児の星グループは、午前7時30分から幼稚園在籍児の虹グループは、8時45分から随時登園してきます。



「みんな一緒に! もっと楽しく! ずっと有意義に!」

東角幼稚園

の 一 日

平成15年4月から東角幼稚園に宮ノ後保育所分園を設置し、5歳児からの合同保育を同一カリキュラムにより、幼稚園と保育所の一体的な運営をおこなっています。ここでは東角幼稚園の一日の生活を通して、幼保一体化事業をご紹介します。

また、この日は、坂本町長も園児と一緒に遊び、給食も食べるなどしていただきました。



午後からは…

各教室で、担任の先生に絵本読みや紙芝居などをしてもらったあと、各グループにわかれ、星グループはお昼寝、虹グループは自由あそびや降園の準備をします。



この時間帯からは、虹グループと星グループに分かれ生活します。



**虹グループは
また明日ね〜!**

お迎えの時間。今日も友達ちみんなに会えてうれしかった〜!

幼稚園在籍児の虹グループは、保護者の迎えで降園していきます。





朝の活動時間です!

登園後は持ち物の整理や着替え、出席ノートのシールはりなどを終えると、ごっこあそびや作品製作などをして過ごします。

この日は、みんながホールに集合し、リズムあそびや運動用具を使い元気に運動しました。

はい、あわって~



大勢の仲間と、同じカリキュラムで可能性の発見や友だちづくり、物事に対する自信を身につけていきます。

うん、へいき!!



お待ちかねの給食タイム!

今日はみんなの大好きなカレーライスです。当番の園児がそれぞれの机へ配膳していきます。



星グループ、虹グループが同じ教室でいっしょに給食を食べます。



東角幼稚園

現在、幼保一体化により一緒に過ごす5歳児は、保育所在籍児の星グループ21人と幼稚園在籍児の虹グループ49人の合計70人がそれぞれ混合の3クラスにて、元気に仲良く園での生活を過ごしています。



星グループは最長午後7時まで!

お迎えを友だちと待ちます。

保育所在籍児の星グループの園児たちもそれぞれ随時降園。

今日は何したの?



おやつ時間!

お昼寝のあとは、片付けをして、おいしいおやつを「いただきま〜す!!」

今日はヨーグait



のどかわいたなァ~



預かり保育の幼児たちもおやつを食べ、お迎えがあるまで待っています。



昨

年と今年、続けて1年生の担任をしています。保幼小の接続を強く意識するようになって、一番変わってきたなと思うことは、私たち教職員の連携が密になったということでしょうか。

入学してくる子どもたちのほとんどが、1年間以上共通の体験をしてきていますから、幼稚園でやってきた当番活動などが、小学校でもそのままスムーズにできます。例えば、給食当番など、6年生のお世話にならずに最初のうちから、自分たちでやろうとします。こんなところはさらに伸ばしていきたいですね。また、お友達も、入学前からたくさんできているようです。小学校では、園からの情報を生かして、一人ひとりの良さをしっかり取り上げて自信を持たせたり、個性の違う友達同士が、お互いの良さを認め合えたりできるような環境づくりに工夫しています。

東角小学校教諭

森川令子さん

子

どもたちはみんな仲良くしていますね。年長になるとお友達が増えることも喜んでいきます。それに幼稚園の子どもと保育所の子どもは、家庭によって生活が違うことを、子どもなりにきちんと受けとめているようです。難しいのは保護者サイドです。一体化して3

年とはいっても、親には疑問や不安がつきもの。そこで、幼保一体についてもっと説明を受けたり、行事の打ち合わせをしたり、親同士の交流を図る必要もあるのですが、親のあいている時間帯が合わないのです。みんな譲り合っていますが、たやすくはありません。

私は今年のPTA会長として、みなさんの意見をまとめるという大任をいただいています。まだ模索状態です。でも、保護者がいろんな意見やアイデアを持っていることは実感しています。これからは、良い意見の受け皿づくりなども提案していきたいですね。

東角幼稚園PTA会長

中川奈緒美さん



千ヨツと
ひと言
お願いします!!

う ちには、いま小学1年生の子どもがいます。保育所に入っていました。去年は年長だったので幼稚園にいきました。毎日楽しそうでしたよ。

地域の子とも同士が知り合うきっかけにもなって、人間関係の幅は広がったようですね。ただ、うちは子どもが3人いて、下の2人は保育所に通っていましたから、保育所と幼稚園、2カ所の送り迎えは大変でした。

幼保一体化の流れを、私はすんなりと受けとめました。子どもは保育所、幼稚園、小学校と進んでいくことによって、多様な経験を積んでいくんだと思います。でも、子どもたちが楽しく通園する裏には、先生方の並々ならぬ苦労があったでしょう。これからも円滑に運営できるよう、サポートしてほしいです。子どもが「休みたくない」と言える園づくりには、先生方の教育・保育しやすい環境も大切です。子どもには直接影響するのですから。

宮ノ後保育所保護者

堂本一典さん



今回のテーマ

「幼保一体化事業」の推進。

上 の子はいま小学校の2年生で、幼稚園に通わせていたんですが、私自身も働きたい希望がありましたので、下の子は現在、保育所でお世話になっています。

幼保一体化で「良いな」と思う点は、幼稚園と保育所、それぞれ違う環境から小学校へと進むのではなく、1年間だけでも、子どもたちが同じ場所で過ごし、早い時期からお互いの顔を知ったり、お友だちができる点だと思っています。日中のクラスは、たくさんの子もたちがいいますが、特に仲よし学級など、限られた児童しかその場にはいないというような時には、一人でも多くお友だちがいるほうが孤立したりすることなく安心できると思います。

保護者としては、制服や行事についてそれぞれのご意見や心配する点がありだと思えますし、幼保一体化が始まり今年で3年目でもありますし、その間に培われてきたものを大切にして進めていくのが大事だと思います。

保育所連合会会長

上羽弓子さん





子ども同士の交流がグンと拡大。
子育ての不安が解消との声も続々と…。

さらに広がる 幼保一体化

来年度からは、佐山幼稚園で
幼保一体化を実施します。

平成15年度から東角幼稚園に宮ノ
後保育所分園を設置し、実施されて
きた5歳児の「幼保一体的運営」も
今年で3年目となりました。

子どもたちは仲良く遊び、一緒に
給食を食べ、毎日楽しく過ごして
いくなかで、交友関係は園内だけで
はなく地域での広がりにもつながっ
ているようです。

また、卒園後の東角小学校でも、
入学前からたくさん友達がいる良
さや、当番活動での自主的な動きが
見られるなどの報告もあります。

幼稚園・保育所と小学校との連携・
接続が強化されることにより、一人
ひとりの個性をより理解し、その一
人ひとりの良いところを伸ばせるよ
うな教育ができるようにもなってい
ています。

昨年11月の久御山町就学前教育審
議会からの幼保一体的運営の具体策
について「現在、東角幼稚園で実施
している5歳児の幼保一体的運営を

順次他園に拡充することが望ましい」
との意見まとめがあり、平成18年度
から佐山幼稚園でも、佐山保育所5
歳児との幼保一体的運営を実施する
ことが決まりました。

また、平成19年度以降に御牧幼稚
園での運営も予定しています。

事情が変わっても、同じ園生活、
子どもも保護者も安心です。

今まで幼稚園に通っていた園児の
保護者の方が、就業や介護などの事
情により、保育所に預けなければな
らなくなった場合でも、5歳児は保
育所籍にて、そのまま同じ幼稚園に
通えます。

将来的には、3幼稚園で
3歳児から幼保一体化を実施。

将来的には、5歳児の幼保一体的
運営の状況を踏まえ、3幼稚園で3
歳児からの幼保一体的運営をおこな
い、教育と保育が一体となった内容
の一貫性を確保します。

「幼保一体化」は全国的な大きな流れとなっています。

久御山町では、平成18年度から佐山校区での実施が決定。

平成19年度以降には、御牧校区でも実施予定です。

全国的にも、構造改革特区による幼保一体化や、就学前の教育と保育を一体としてとらえた総合施設の試行実施など、幼稚園と保育所の一体化、一元化が進められようとしています。



▲平成19年度以降に実施が
予定される御牧幼稚園



◀平成18年度から実施が
決まった佐山幼稚園

町長に聞く 幼保一体化事業の必要性

子どもたちの「生きる力」を育み、女性の就業と子育ての両立を支える幼保一体化事業の重要性を住民のみなさんに知っていただきたいと思います。

久御山町長 坂本 信夫

現代社会の潮流は久御山町をも、都市化・核家族化・少子化・地域性の希薄化等のうねりに巻き込んでいます。これらは私たちに簡便な生活をもたらしましたが、反対に子どもたちに与える教育的な影響は深刻です。

子どもの学力低下、「生きる力」の低下として、大きな社会問題にもなっています。「生きる力」とは、子どもが自分で課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、豊かな人間性や健康な体力のことです。そして、「生きる力」の基礎を育成するために、就学前教育に大きな期待が寄せられています。

久御山町では、幼児期から高校までを見通した、一貫した教育を推進しています。なかでも、幼保一体化による就学前教育は急務といえるのです。保護者の就労形態にかかわらず、小学校に入る前の希望するすべての5歳児が、久御山町の子どもとして同等の教育を受け、同じスタート台に立って、小・中学校、高校へ出発できるようにするのです。

東角小学校区では、幼保一体化3年目を迎えました。東角幼稚園のこの3年は、多くの課題を洗い出し、前進させてきた歴史ともいえます。来年度は佐山小学

校区、再来年度以降には御牧小学校区で実施する予定です。そのためにも、これからは、東角小学校等の教育現場から発信される情報を精査し、一体化の効果を正しく評価して、よりよい教育環境づくりに役立てていきます。



将来を見据えた教育ビジョン

児童・生徒の「生きる力」の育成をめざし、
幼児期から高校進学まで、一貫した教育の推進。

・・・ 保幼小中高一貫の視点による教育活動の「4本柱」 ・・・

《学力充実》

教科の基礎的・基本的な内容を習得し、学力充実に努めるとともに、個性や能力の伸長に努め、一人ひとりの学ぶ意欲を育てます。

《英語教育》

英語に対する興味や関心を深め、積極的にコミュニケーションしようとする意欲を育てるとともに、異なる文化や価値観を尊重できる気持ちを育みます。

《情報教育》

コンピュータ等の情報機器に慣れ親しむとともに、情報を収集・整理したり、調べたことをまとめ、表現する力を育てます。

《福祉・ボランティア教育》

身近な福祉への関心や理解を深め、だれもが住みよい社会づくりのために考え行動しようとする気持ちを育みます。



「お父さん、
お母さん。
赤ちゃんや小さなお子さんと
一緒に遊びに来ませんか？」

出会い、ふれあい、笑顔いっぱい！

久御山町子育て支援事業

お子さんをお持ちの方、これからご出産を予定の方。
久御山町では、子どもを産み育てることへの不安を解消し、積極的に社会に参加しながら
子育てができる環境づくりにつとめています。

久御山町は子育て支援策として…

1) 経済的支援

0～18歳までの子どもを持つ家庭を対象に、いく
つもの保護者負担の軽減対策を実施しています。

2) 待機児童ゼロ

保育所入所を希望するすべての子どもが入所でき
ます。

3) 未就園児への援助

保育所・幼稚園に通わない子どもと親のための一時
保育や地域との交流を図ります。

これらを軸とし、他の自治体と比しても誇れる高レ
ベルのプランを数多く用意しています。

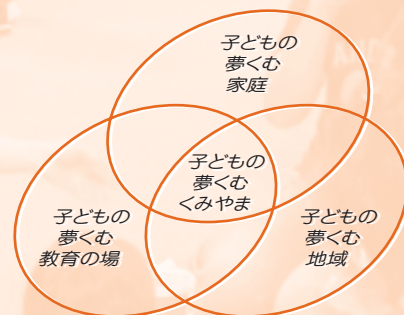
さらに、子育てを支援するために、気軽に集い、共
に学び考え、交流しあえる場としての「子育て支援
センター」の開設を計画しています。

「久御山町 子育て支援プラン」の基本理念

子どもの夢くむ くみやま

—いつまでもたのしい夢あるまち—

久御山町では、たくさんの子育て支援事業を展開しています。
そのなかからここでは、お父さんやお母さん方が、お子さんと一緒に、そし
て気軽に参加していただける「交流型の支援事業」の一部をお知らせします。



「子どもの夢くむ くみやま」のイメージ

〈つどいの広場事業〉

●みるく♡サロン

3～8か月位までの赤ちゃんと保護者が自由に遊ん
だり交流を図ったりし、子育ての悩みなどの相談
もスタッフが応じています。

場所／保健センター内 夢くむルーム

●親子サロン

自由に遊びながら親子のふれあいを深め、保護者
同士の交流も！ 手遊び・歌・絵本の日もあります。

場所／保健センター内 夢くむルーム

〈地域子育て支援事業〉

●未就園児あそびの日

翌年入園をひかえた2歳児が幼稚園に慣れるため、
保護者と一緒に遊んだり、絵本の読みきかせを楽
しんだりします。

場所／佐山・御牧・東角の各幼稚園

●スキップ広場

保育所の遊戯室や園庭を開放し、子育ての相談も
受けています。

場所／佐山・御牧・宮ノ後の各保育所

※詳しくは、広報くみやまや役場などに設置してあるチラシをご覧ください。



桃・源 紀・行

八朔祭

雙栗神社

この夜ばかりはにぎやかに

露店の灯に集う笑顔

府道宇治淀線の佐山東代の信号を北

へ30メートルほど進むと、右手に雙栗神社の大きな社標が見えます。

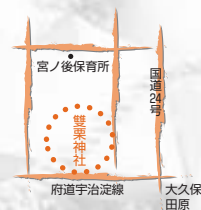
明治28年11月に佐山、林、市田の氏子が建立したもので、「雙栗神社」と深く彫り刻まれた書体は、淀藩最後の藩主であった稲葉正邦が揮毫したものです。

八朔とは、旧暦の八月朔日を略したもので、この日は稲の実りを祈願する収穫の前祝いの日とありますが、「たのみ、たのむの節供」とも呼ばれ、たのみとは新穀の豊饒を祈る（頼む）日であり、それが転じて収穫したものを日ごろ恩恵を受けている人に贈る日ともなりました。

雙栗神社では、旧暦の八朔に近い8月31日に佐山、林の宮総代と両自治会長らが、すでに収穫の終わった早生米の神饌を宮司が神前に供えて八朔の儀がおこなわれます。

また、この日の夜は、夕方から神社境内に多くの露店が軒を連ねます。

久御山町の祭礼で、これほど多くの露店が並ぶのはめずらしく、日ごろ静かな境内もこの日ばかりは夜遅くまでたくさんの人々にぎわいます。



●八朔の神事



くみやま ほほえみ Worker!!

子育ての「キーパーソン」

久御山町の子どもたちの“明日の笑顔のために”
働いてくれた人、働いてくれている人がたくさんいます。
「幼保一体化」や子育てについて伺いました。



東角幼稚園

池尻弓子園長

当園で幼保一体化が始まり3年目となりますが、子どもたちも幼稚園、保育所の枠を越え、園で楽しく毎日を過ごしています。

同じ地域の子どもたちが同じ経験をして小学校に入ることや、発達にあわせた就学前教育を受けられることが利点だと思っています。

幼児期は、家庭における教育やしつけが大変重要な時期であり、教育の原点は家庭にもあるという点から、保護者の方にも、家庭教育の役割、家族のふれあいを大切にして積極的に子育てをしてほしいと思います。



久御山町就学前教育審議会

山本さやか会長

5歳児のほとんどが幼稚園・保育所に通うという就学前教育準義務化の状況から、幼保一体化が叫ばれて久しい昨今ですが、不易流行、社会の変化に対応して国レベルで幼保一体化モデル事業が始まっています。

久御山町の地域実態を踏まえた幼保一体的運営が関係者の努力により歩み始め、他の市町村からの注目も浴びています。

この取り組みが、子どもの豊かな発達や子育て環境の充実につながり、さらに、小学校の教育実践と接続・連携して、明日の久御山町発展の大きな力になるものと期待しています。



久御山町教育委員会

石丸捷隆教育長

教育行政の中で、就学前は、大変重要な時期であると考えています。そして、保・幼・小・中、高校までの接続を考えた一貫教育を久御山町の教育の最重点と位置づけています。

幼保一体化につきましても、平成15年度に東角校区で始めて以来、幼稚園のみならず、地域でもその輪が着実に広がり、小学校へもスムーズに接続するなどその成果は大きなものがあります。

今後も子育て支援をも視野に入れ、子どもの視線に立ったきめ細かな幼児教育を進めてまいりたいと思います。